



志友会報

802-0985 北九州市小倉南区志井6丁目11-13
(株)網武出版 093(962)7740 FAX093(961)8224
Eメール: saigo@skyblue.ocn.ne.jp

本紙の年間購読は本体 3,000 円 + 税です。

合気語録

(前回の続き) 僅か、数年しか武道経験がない者が会主や会長になったり、自称で高段位を名乗ったり、館長になったり、総裁になったり、最高師範になる時代である。これは丁度、登山で言うならば、三度しか山に登った事がない者が会長になったり、あるいは冬山を全く経験した事がない山男が、リーダーとなって、危険な冬山に挑むという構図によく似ている。

スポーツ武道やスポーツ格闘技が、一般化されればされるほど、この傾向は強くなり、今日の「会道」というのは、多くがこの類である。分裂しては、再び新たなものが結成され、それで気に食わねば、再び分裂して、また何処かで新しい団体が結成されるという愛好家が、同じ井の中の蛙として、勢力争いを展開している。しかがってこうした団体には、古人が連綿として伝えてきた「秘伝」がない。底辺の裾野を広げ、大衆化が目的であり、一般化して、会員数を増やすことを目的にしている団体も少なくない。こうした中では、やはり「秘伝」など残りそうもない団体構造が浮き彫りになっているようだ。

秘伝伝授は、その伝承方式が「一子相伝」という構造を持っていて、関係上、真の姿は一匹狼的なものであり、会員数の優と、儀法的熟練度がイコールのものでない。それは元来、古武術が興行師としてのプロモーション的存在ではないからである。

地味であり、細く、然も脈々としたものである。こうした環境にあつて、初めて秘伝は醸成され、人に知られず、密かに門外不出として伝えられるのである。

「出る杭は打たれる」とあるいは「出る釘は打たれる」という諺がある。世間には、優れて、ぬけ出ている者、あるいは彗星の如く現

られる者は、とかく憎まれるの、諭えがあるようだ。また、差し出て振る舞う者は、他から憎まれて制裁される諭えが、この諺には含まれている。

順風満帆の人生など有り得ない。それこそ妬みの対象になるのだ。

また「好事魔多し」とも言う。一時の順風満帆、あるいは善い事や、うまく行きそうな好事には『琵琶記』にある通り、とかく邪魔が入りやすいもので、こうした状況下、他人からの中傷誹謗や羨望が入り込んでくるものである。

私は半世紀以上、この大東流に打ち込み、そのお陰で色々な種類の、人間を研究する機会に恵まれ、武術家や武道家、格闘家やスポーツ選手を見て来た。

また「武は、礼に始まり、礼に終わる」とも言われて、それを豪語する人間が、以外と礼儀知らずであったり、強い嫉妬の持ち主だったりした。

武術や武道の世界は、この世界だけが特別な世界ではなく、この領域は、俗人のそれと変わりなく、ありとあらゆる種類の人間が、自己顕示欲を露にして、吹き溜まっていて、ドロドロとした穢さすらん感じられる。

一端の武道家として、あるいは著名な武道家として名の通っている人が、実は非常に心が狭く、また嫉妬深い人で、他流他派を中傷誹謗したり、最もらしい理論を並べて、自己顕示欲を曝け出した自慢話をするのは、よく知られたことである。大方の武勇伝の出どころは、一種の自己宣伝から始まり、自身を一周りも、二周りも大きく見せようと画策したところにある。これは見掛けとは異なり、内面の、小心で心が狭いことを現わしているに他ならない。

そしてこういつつ心の狭い武道家が、一度嫉妬に狂つて、それが直接中傷に変わり、誹謗に変わる。その妬みの深さは、過去の歴史を引っ張り出したり、系統図を引っ

張り出して、全く現在を相手にせず、過去に拘わる憎悪で妨害し、マイナーな雑誌に掲載して、徹底的に詰るといふ見苦しさを見て、容易に窺えよう。

また、こう言う類の武道家が、弟子や会員の前では、「人の道」を説いたり「礼節謙讓」を論つのであるから、全く、空いた口が塞がらないとは、このことである。

現実に武術・武道界には、純粋な人間の求道精神の壮拳に對して、ありとあらゆる手法を用いて、背後や側面から横槍を入れ、その誹謗・中傷をもって、自分を大きく見せようとする類がいることは寔に悲しむべき事実である。

今日、日本には数社のマイナーな武道雑誌があるが、特に試合のない古武術系で著名な武道家に祭り上げられている人の中で、師範として取り巻かれ、人格者として取り巻かれている人が、実には、大変心の狭い人で、全く場違いな武道雑誌に他流他派を中傷誹謗記事を書かせているのを見ることがある。内容の中心は、他流他派を過去を得意げに暴き、全く現在という「今」の次元を問題にしていないことだ。そして一方で、自分の自己顕示欲を満足させるお追従記事、編集者に書かせていることだ。

肉体というのは物理的に限界がある。人間は肉体を厳しく鍛えることで、次々に困難に立ち対い、それに挑戦し、己を律することで勝利を収めていく事が出来る。

しかしこうした精神力も、あるいが肉体力も若い時だけであり、初老の声を聞く四十代始めには物理的な限界に突き当たる。

特に西洋科学が証明したスポーツ学の理論にしたがつた外筋運動は、スピードとパワーを論理的に追求するスポーツ科学であり、人間は歳をとるに従ってその威力も筋力も低下すると結論づけている。

物理的な限界を現すものの一つに、太平洋戦争末期の日本軍の神風特別攻撃隊の精神主義が、アメリカの物量作戦に敗れたと、近代日本史には書かれている。

そしてアメリカの工業力と、それを基盤とした物量には、日本の精神主義は勝てなかった。物量の前に、脆くも潰れ去ってしまったのである。

つまり物量という物理的な多勢の前には、精神は肉体を上回るこゝが出来ないという物理的な限界があることを証明したものであり、外筋同士の肉弾戦で正面衝突すれば、最後必ず多勢が勝つという論理を上げている。

合気に通じる耶和良之術

その四



巴御前像 (平安末期から鎌倉初期の武家の女性)

馬から敵を引き降り降ろし、あるいは前輪に敵の頭部を押し入れ付けて打ち取る術は、耶和良之術として記されている。

これによれば「徒歩武者、我に組み付きたる時は、馬を駆けさせて引きずり、打ち取るべし」と記され、また「騎士を打ち取るべき時機は、前輪に兜を押し付けたまま、打ち取るべし」とある。

こうした技術は後世に於て柔術の「拔手術」として発達するが、既に源平組打時代においてもしばしば戦場で用いられており、組打において一方の者が短刀を抜いて一方を突こうとする時、一方はその小手を掴むものである。そして一方はそれを外し、さらにこれを掴もうとする。これが「拔手術」であり、「外し手」であった。しかし相手の腕を掴んで引き取る事は上級の武士では普通出来ない事である。この敵を引き取る術は、よほど馬術が上手でなければならず、事では無く、呼吸を誤ると怒る敵に我が馬の尻に飛び乗られてしまふ。敵を引蛇となつてしまふのである。敵を引き取るには敵の袖を掴み、同時に我が馬に飛び乗れないように敵を突き放してはならない。更に迅速に短刀を抜いて敵の急所に止めを刺す事が主眼になり、こうしたものを「耶和良之術」といったのである。

(前回の続きより) 特に戦場において、知的な勝負の決着は、一般の将兵には非常に分かりにくい。知的水準も生活水準も、上土に比べて低い下土は、むしろ教養をベースにする知的ゲームよりは、秘術の限りを尽くして、誰が見ても、はつきりするものを好む。そして誰が考えても、勝ち目が無いという者が、逆転劇で勝ちを修めるといふ奇蹟に大きくうたれ、感動するものである。

江戸時代に大流行した相撲は、以上述べたような要素が入っていた。

相撲が庶民に大流行したのは、この時代に「土俵」が發明され、誰が見ても勝敗が明確になり、それが単純化されたからだ。

そして最も人気を集めたのは、身体の小さな力士が大男の力士を倒す、その一瞬だった。多分に逆転を期待するところがある。今日の大相撲でも、こうした逆転劇を演じたり、小兵でありながら大兵を敗る力士は人気が高い。

さて、巴御前(生没年未詳)は木曾の豪族中原兼遠の娘である。そして今井兼平の妹でもある。

幼少より、武勇すぐれた美女の誉れ高く、源義仲に嫁し、武將として最後まで随従した。夫の戦死後は和田義盛に再嫁し、その敗死後、尼となつて越中に赴いたという。また一方において、「耶和良之術」の達人でもあったと云う。

巴御前の今日に伝わる様々な逸話は、多くは巴が生きた時代背景と無縁ではなく、戦場の戦い振りにおいて、様々な逸話が生まれた。

平安末期から鎌倉初期において、

事である。この敵を引き取る術は、よほど馬術が上手でなければならず、事では無く、呼吸を誤ると怒る敵に我が馬の尻に飛び乗られてしまふ。敵を引蛇となつてしまふのである。敵を引き取るには敵の袖を掴み、同時に我が馬に飛び乗れないように敵を突き放してはならない。更に迅速に短刀を抜いて敵の急所に止めを刺す事が主眼になり、こうしたものを「耶和良之術」といったのである。

西郷派大東流合気武術総本部

西郷派大東流 Home Page で小説『旅の衣』を読もう!

http://www.daitouryu.com/syoudoukan/

小説『旅の衣』は、西郷派大東流合気武術 曾川和翁宗家の青春時代を小説化した特異な青年の群像である。あの全共闘が暴れ廻り、当時の世相を赤化して、革命一色で染まりつつあった 1970 年代、人々は何を考え、何を行おうと未来を夢見ていたのか、そうした青春の群像の中に曾川宗家も居た。この小説『旅の衣』はそうした世相を背景に、その時代を生きた一人の男の実話を元にした物語である。